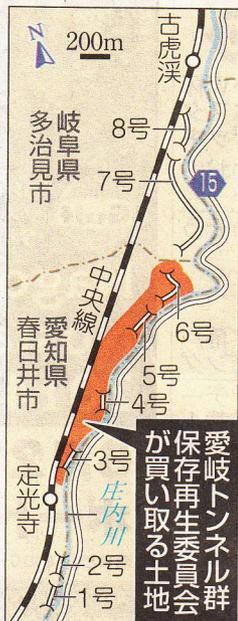


愛岐トンネル群 買収へ

春日井 NPO法人 4基保全

明治時代に建設された愛知県春日井市―岐阜県多治見市間の旧国鉄中央線トンネル群（十三基、延長八キロ）を保全するため、春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」が、トンネル四基を含む民有地を買い取る。トンネルと土地を所有する名古屋市の建設会社と十六日に契約する。市民の募金で土地を取得する「ナショナルトラスト」の手法で実現。日本ナショナル・トラスト協会（東京）によると、自然の地形ではなく産業遺産を対象にした活動は全国でも珍しい。（佐久間博康）

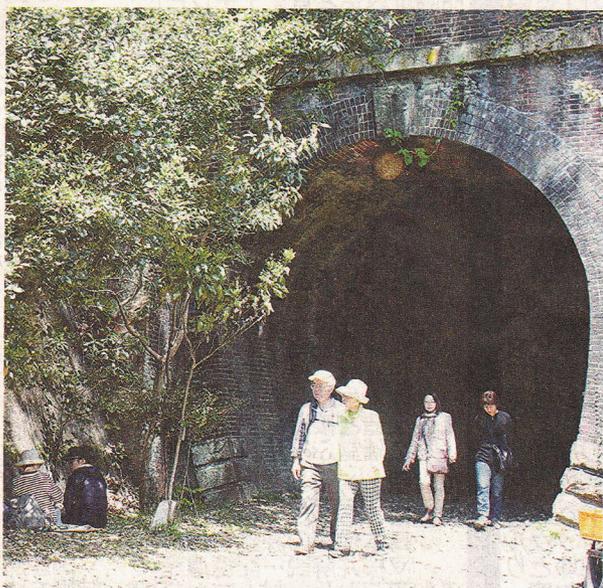


愛岐トンネル群保存再生委員会が買い取る土地

十三基が連なる愛岐トンネル群は国内最大級の規模。百年以上前のれんが造りのトンネルが当時の姿で残っていることも貴重とされる。取得する土地は、J

R定光寺駅近くでトンネル3〜6号の四基を含む春日井市玉野町などの十六万平方メートル。

一九六六年の廃線後、トンネル群は放置され、地元でも忘れられた存在だった。現在、再生委員会の事務局長を務める村上真善さん（63）が知人のお年寄りから「昔、中央線にれんがのトンネルがあった」と聞いたことなどをきっかけに、二〇〇七年に再生委員会の



市民の寄付で買い取りが決まった「愛岐トンネル群」=4月25日、愛知県春日井市で

前身となる市民グループを結成。建設会社の協力を得て、今回の買い取り区間にあたる廃線跡で散策路を整備し、〇八年から春秋に見学会を開いてきた。

〇九年から一口千円の寄付を募るナショナルトラスト運動を展開。国鉄の硬券

を模した領収書を渡すアイデアもあり、延べ約一万一千人から約千四百万円を集め、買い取りを実現させた。

再生委員会は今後、四基を国の登録有形文化財にして保全を進め、市民が歴史と自然に親しむ名所にした

旧国鉄中央線のトンネル群 1896（明治29）年に国鉄中央線が建設され、1900（明治33）年に名古屋―多治見間が開通。電化・複線化工事に伴い、定光寺―多治見間の8キロと定光寺駅南側の一部が1966（昭和41）年に廃線。13基のトンネル群が

現存し、赤れんがには製造した会社と職人を示す刻印がある。NPOの愛岐トンネル群保存再生委員会が整備を続ける4基のトンネルは、2009年に経済産業省から「近代化産業遺産群」に選定された。再生委員は、12年に国土交通省の「手づくり郷土賞」を受賞した。

い考え。愛知県教委によると、文化庁の調査官が既に四基を視察して高く評価しており、文化財に指定される公算が大きいという。再生委員会は、残りのトンネル九基を所有するJR東海、多治見市、名古屋市内も呼びかけ、トンネル群一帯の活用方法を考えたいとしている。

村上事務局長は「先人の残した産業遺産を郷土の誇りとして、次の世代に引き継ぎたい」と話している。